

先月の活動(4月)

日本語教室 4/4 オリーブ春のパーティ
4/11(M) 4/18 4/25 (3回)
4/ 8(水) KIFA理事会(恩地)
4/12(日) KIFA総会(恩地・豊村・中村)
4/25(土) 会計監査(内田幸・杉山美・小春)

※(M)はミーティングです。

今月の活動予定(5月)

日本語教室 5/9(M) 5/16 5/23 5/30 (4回)
5/ 7(木) KIFA広報部会(恩地)
5/23(土) BNN会議(恩地・田中・福井)
5/31(日) オリーブ総会・懇親会
5/23(土) オリーブ通信係打ち合わせ
5/31(日) N2担当者打ち合わせ(9時~9時半)

参加人数(4月)

	4/4	4/11	4/18	4/25
学習者	25人	19人	15人	21人
スタッフ	25人	24人	20人	17人

会員の動き(4月)

〈入会〉なし
〈退会〉なし 〈休会〉なし



オリーブ通信

2026年 5月号
2026・5・16 発行
第289号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

新しいなかまを紹介します



カルライヤ・ナウルス
ファルフォドヴィッチ
(ウズベキスタン)

ウズベキスタンはどんな国?



オリーブにお二人目(私の知るかぎり)のウズベキスタンの学習者さんが入会しました。どんな国なのでしょう?

中央アジア、かつてシルクロードの要衝として栄えた国だそうです。首都はタシケント。言語はウズベク語。民族はテュルク族が83%。天然ガスや金など地下資源に恵まれ、綿花の輸出も盛んです。1992年のソビエトからの独立以来、日本は友好国としてよい関係を保っています。名物料理は「プロフ」春のパーティでいただきましたね。



『みんなのほんご』第3版が出ました

日本語教室で使用している『みんなのほんご』が第3版に改訂されました。(Iは昨年10月、IIは今年4月発売)

主な変更点

- 表記の変更 漢字→ひらがな : 君→くん、兄弟→きょうだい
ひらがな→漢字 : 牛どん→牛丼
(道が)込みます → (道が)混みます
- あらたに追加、もしくは初出を繰り上げた単語
JR、メニュー、スマホ、ラーメン、ゴールデンウィーク、連休、マンガ
- 削除、もしくは初出を繰り下げた単語
CD、ケータイ、ハンサム、でんしじしょ、ゴルフ、でんわ
- 単語の入れ替え
ABCストア → スリーエストア
- 表現の変更
(授業を)はじめます・おわります → はじめましょう・おわりましょう
「何で」の読み「なんで」→「なにで」
※「明日、ディズニーランドに行きます」「なんで行きますか?」
「おもしろいからです」こういうやりとり、ありますよね。「何で」を、「理由」ではなく「手段」を問うことばとして教えるための読みの変更なんです。変更は他にもあります。くわしくは「スリーエネットワーク」のHPでご確認ください。



ケンジさんの俳句

夏めくやびわ湖通りの浜風も



中川先生のへんてこ日本語

コーヒープレーキ

海外で開催される、日本語教育関係の学会の開催プログラムに、「コーヒープレーキ」とあって、思わずニヤリとしてしまった。「ああ、やっちゃった」。もちろん「コーヒープレーキ」のことであつたのは言うまでもないが、Breakは、ブレイクとったり、ブレイキとったりで意味が異なる。「ストライク (Strike) のために電車が動きませんでした」というのも、同じ誤用である。Steakは、「ステーキ食べたい」などとなる。Itkも、意味こそ違えはしないが、インクと表記されたり、インキと表記されたりする。とかく外来語のカタカナ表記は難しい。

かつてアメリカの学生が、「きのうサッカーをしていて、グラスをわってしまった」と言うので、「どこでサッカーしていたの?それとも眼鏡?」と聞くと、「家のグラス」。 「ああ、家のグラスね」。 Glassも、グラス(冷たい飲み物を入れる容器/眼鏡)とったり、グラスとったり。日本語教師ならではの誤用発見である。ついでに言えば、Stickは、「ステッキ」(杖) になったり、「スティック」(棒) になったりする。こうなると、外来語はもはや英語やフランス語ではなく、日本語独自の世界を形成しているようである。日本語の語彙体系として外来語は、和語や漢語以上に厄介であるかもしれない。こんな外来語を集めていくと、ステッキ/ステッキな出会いと発見があるかもしれない。今日はこのあたりで、プレーキとしよう。

国際教育企画顧問 中川良雄



編集後記 他のボランティアの仕事で領収書の差入印刷をせねばならず、ネット上の説明をいろいろ参照してがんばってもダメ、最後にA1に質問したら懇切丁寧に教えてもらい「うまくできてよかったですね」のことばまでもらい、プログラムされているだけだと思いつつも癒されました。老後はA1猫(ただし耳のあるやつ)を相手にTVを見て心穏やかに過ごしたいと思いました。(フクイ)

第1回 くさつラウンドテーブル

「多文化でつながるまち草津」
~ちがいを楽しみ、共に生きる~

2026
5/29 金
9:30 ~ 12:00
キラエ草津 502・503 定員 50名
参加費無料

ちがいで、むずかしい?いいえ、話してみたらおもしろい……

多文化共生をテーマに参加者が話し合う企画です。興味のある方はぜひ参加してください。

2026年度総会記念講演 を聴いて (豊村)

4/12、KIFA 総会後の記念講演を聴いてきました。

講師は滋賀県高島市に本社がある新旭電子工業株式会社の社長、大島節子様。会社の外国人材活用や地域社会との連携などについて取り組み内容や具体的事例をお話していただきました。

まず、新旭電子工業さんの概要について。一言で言いますと、プリント配線基板のメーカーです。我々に身近なものと、パソコン、スマホ、ウォシュレットやエアコン、カーナビなどの製品内部にありこれらの操作や制御に関わる心臓部分になります。

高島市の本社工場には303名の従業員がいらっしゃり、そのうちベトナム人で正社員24名、派遣社員40名が勤務されています。全従業員の約20%がベトナム人でかなり高比率だと思いました。

社の方針として、帰国前提の3年の技能実習生制度での採用ではなく、日本永住を前提にして高度外国人材だけを採用、すでに10年前から実施しているとのことでした。

聴いていてここが外国人材活用でうまくいっている大きなポイントだと感じました。

ベトナムの大卒者を面接して採用、最低限日本語検定N4レベルで来日、試用期間中、日本永住の覚悟があるかも確認し、入社後日本語研修も行い3年勤務後にはN2レベルに、社内ではすべて日本語で会話という徹底した日本語学習支援があるのです。



私生活では入社後、住居地域へ問題なくなじめるように会社が率先してあいさつの励行やゴミ出しルールの徹底、騒がないことなどのマナーなどを教えることで地域でも評判が良いそうです。地域の行事の参加も大歓迎されているとのこと。

さらに永住希望者には家族の呼び寄せ、自宅など不動産取得の援助なども実施されています。

このように外国人を単なる労働力とみなすのではなく、社長さんもベトナム人を家族として扱っている(私を母親と思い、社員を兄弟姉妹とってください、と言っているとのこと)最後に、人を思う心が大切だとおっしゃっていました。

どうしても大企業に目が行きがちですが、滋賀県内にこのようなしっかりした外国人材活用の考えを持ち実行されている会社経営者がいらっしゃるということを知ったよい機会でした。

別府温泉の魅力を紹介します

私は大分県別府市の生まれです。日本に温泉は多いですが、泉質の多彩さ、源泉数の多さでは不動の全国1位を誇ります。そのため、どこを訪れたらいいのかわからず悩みますよね。ということで、わたしのおすすめの別府温泉の楽しみ方をお教えしましょう。

別府八湯といって、八つの大きな温泉郷(浜脇、別府、観海寺、

堀田、明礬、鉄輪、柴石、亀川)に分かれます。ちなみに、わたしは

亀川温泉の生まれです。街のあちこちに銭湯のように共同浴場があり、全国の先頭の共通料金が150円だったころ、別府では5円でした。30分の1ですね。だから、かつては家にお風呂がなくて毎日温泉に入るのが当たり前でした。

日本で確認される10種類の泉質のうち、別府には7種類の泉質があり、そのうえ、温泉の状態によって、蒸し風呂、砂湯、泥湯などに分けられるので、全部入るのは1ヶ月くらい宿泊してもらわないと無理かも？



有名などころでは別府駅前の、歴史ある外湯竹瓦温泉。普通のお風呂の他に別料金で砂湯が楽しめます



鉄輪温泉の蒸し風呂と地獄蒸し料理。温泉の蒸気を利用してカニ、エビ、イモ、卵などを蒸して食べられるところが何か所もあります。鉄輪温泉は長期滞在の湯治旅館も多く、私も1泊3000円で1週間ほど湯治したことがあります。

明礬温泉の泥湯。別府温泉保養センター。インパクトある風景ですよ。ちなみにこの露天風呂部分は混浴ですが、完全に白濁しているので首だけ出して楽しめます。滑って転ばないように気をつけて。



明礬温泉の地獄蒸しプリンも名物の一つ。原量は卵牛乳砂糖のみ。

観海寺温泉 この温泉地は山の中腹にあり、景色がよいです。特に「いちのいで会館」という日帰り湯はエメラルド色で、湯に入っていると自分まで青に染まりそう！私のいちばんのおススメ温泉です。



別府には「温泉道」というのがあって、スタンプ帳を買って市内の温泉を巡り入湯してスタンプを集めるとその数によって段位をもらえます。88スタンプ集めると「永世名人」として写真入りで温泉に掲示してもらえるそう。また『温泉本』というのが書店にあり、主な外湯、ホテルの温泉を紹介しています。日本一の源泉数を誇る別府温泉、いろいろめぐってみたいですね。外湯は全部で250くらいあるから一生楽しめます。